

コースの概要、特記事項、

7月5(土)

朝4時30分に自宅を出発、エイトパーキングに駐車し、羽田7:00発のANA米子行に乗。米子到着後はレンタカーにて移動。曇り時々雨は完全に雨に変わる。夏山登山道直下に無料の駐車場があり、カッパを着て身支度を整える。なにしろ、お金もかけて、はるばる神奈川から来ているのでやめるわけにもいかず、天候よりも欲の方が勝りました。それでもはじめての山はわくわくするもので、まして中国地方はまるっきりのお初ですから。

傘をさしながら一步一步、登りました。これでもか、これでもかというほど、登りの連続。八合目を過ぎるまで水平に歩いた記憶がありません。八合目を過ぎしばらく登るとようやく高山植物保護を目的とした、木道があらわれてきました。草原のなかを歩いているような気持ちのよい風景でしたが植物はほとんどみられません。1709mの弥山山頂はそこそこに、すぐ下にある避難小屋に移動しました。そこには管理人？がおり、ジュースと水を売っていました。2階は素泊まりもできるようでしたが確認はしませんでした。小屋には10名ほどの登山者が休んでいましたがお互いに濡れた状態だと会話もはずみません。学生のグループだけが元気そうにしているだけです。昼食をすませ、一気に下山。

一刻もはやく下に着きたかったのですが、予定通り、6合目分岐の行者登山道を下ることになりました。こちらは、ややなだらかではあるのですが木の階段や木道が多く、結構滑る危険がありました。ブナ林もこちらのほうが多く、鬱蒼とした印象です。元谷避難小屋の直下をトラバースする元谷の通過は落石の危険や雨のため水も濁っており、なんとなく嫌な感じがしました。晴れていれば北壁全体を確認することもできたのかと残念でした。

午後になり雨脚もさらに強くなり、大神山神社に着くころは靴もびしょり、カッパの中も汗で気持ち悪くなっていました。大神山神社の奥宮本社は国の重要文化財に指定の1805年に建立されたとされる立派なものでした。一見の価値があるとおもわれます。

14:40にようやく駐車場に到着し、Sさんは地元の人好きなおじさんから北壁に関する情報を収集していました。着替えをすませ、米子自動車道溝口インターから蒜山を経由して本日の宿、休暇村蒜山に16時過ぎに到着。目の前に牧草地がひろがり、清潔感あふれる居心地のよい宿でした。

7月6(日)

6時に起床、天気は曇り。昨日の雨に比べるととりあえず、よかった。下蒜山登り口の犬狹(いぬばさり)峠と下山口の上蒜山まで携帯で連絡すれば休暇村のマイクロバスが迎えに来てくれるというサービスがあり、たいへんありがたかったです。

マイクロバスで9時に犬狹峠に着くと、4台位の車がすでに到着していました。こんな天気でも登る人はいるものです。下蒜山山頂までは石と黒土のつるつるした登り坂を約90分かけて到着、霧雨と草の露があり、上着のカッパをきることになりました。

中蒜山で昼食をとり、上蒜山を目指すところで、下山禁止の立て看板。ルート図を確認するが間違っていない。とりあえず、下ることにするが5mも歩くと道がきれており、引き返すことになりました。避難小屋の手前に上蒜山への看板があったことに気が付き、よくよく地図をみると避難小屋を巻いてかかれましたが山頂まで行ってしまふと間違いやすい個所でした。

私たちみたいな人が多いため、例の立て看板があったのでしょうか、特にガスっているときは注意です。反省。上蒜山への途中からは下界もみえはじめ、晴れていれば上蒜山から大山が望めることですが残念でした。しかし、この山はお花がいっぱい咲いており、特にササユリが登山道にそって咲いてとてもきれいでした。広葉樹も多く、今度はぜひ秋にきたい女性的な山でした。

蒜山インターから米子まで約1時間、皆生温泉の宿に到着。ゆっくり汗をながし疲れをいやしました。余談ではありますが、2日間でびしょり濡れ汚れた登山靴をボイラー室で乾かしてもらい、おまけに泥をきれいに返してもらった時は感激しました。

翌日は観光をして無事に厚木まで帰ってきました。